

1 目指す学校像

児童生徒一人一人が主体的に活動し、自己を肯定的にとらえることができるよう個々のニーズに応じた教育ができるよう支援を行う。  
 ○個々の児童生徒に対応することで治療中の児童生徒が登校を楽しみにする学校 ○保護者から信頼される学校  
 ○医療関係者等と連携し協働できる学校 ○教職員が生き活きと仕事ができる学校

2 本年度の教育目標

一人一人のニーズに応じた教育を推進し、社会参加・自立できる人間の育成をする。

評価の基準  
 A：設定した目標を十分達成できた。  
 B：設定した目標に対し、ほぼ達成でき、次年度の課題が明確になった。  
 C：設定した目標に対し、成果が不十分であり、課題が残った。  
 D：設定した目標に対し、ほとんど達成できなかった。

評価者  
 ○児童生徒 8 名  
 ○保護者 9 名  
 ○病院関係者 4 名  
 アンケート回答者 29 名  
 ○教職員 5 名

3 評価

項目	昨年度の課題	本年度の目標	目標達成のための手立て	自己評価	学校関係者評価	今後の課題
1 授業に関すること	<p>○授業効果を高めるための、その児童生徒にあった方法を模索し、実践する。</p> <p>○児童生徒が自分の病気や治療・療養について理解し、前籍校に戻った後も自覚した生活ができるようになるための学習を、なお一層充実をさせる。</p>	<p>○個々の児童生徒にあった指導について、関係機関と連携しながら指導方法、教材、教具を研究する。</p> <p>○児童生徒が自分の病気を理解し、日常生活を送ることができる力をつけるための授業改善を図る。</p>	<p>○教職員それぞれが自分自身の授業力向上のために教材研究や研究授業等に取り組む。</p> <p>○ボランティア等を活用して、授業等の内容に広がりを持たせる。</p> <p>○児童生徒の病状等の自己理解のために自立活動で取り組む。</p>	<p>○教職員全員による研究授業に取り組むことができた。その中で、教材の開発、授業展開等について全員で考えることができ、改善に向けて話し合いもできた。</p> <p>○ボランティア等を活用して、音楽、自立活動、総合的な学習、保健体育等の授業の内容に広がりを持たせることができた。</p> <p>○児童生徒の病状等の自己理解に向けて、自立活動で取り組んだが、十分達成できたまでにはいっていない。</p>	<p><b>B</b></p> <p>質問3 わかりやすい授業をしているか？                  児童生徒「5」75%、「4」12.5%                  保護者「5」87.8%、「4」22.2%                  教職員「4」100%                  学校関係者「5」17.3%、「4」20.7%</p> <p>○保護者からは、子どもに合わせた授業をしてきていると一定の評価がされている。</p> <p>○教職員は、全ての授業において十分な配慮ができていますとまでは言い切れず「4」の評価を行っている。</p> <p>○学校関係者からは、実態が分からないの意見が見られた。</p>	<p><b>B</b></p> <p>○学校関係者からは、授業を参観したことがなく「わからない」の回答があるが、全員に授業を見てもらうことの難しい課題が残る。</p> <p>○教職員自身は、まだまだ力量不足な面を感じているため、授業づくりに向けて教材研究や授業展開等の研修に取り組む必要がある。</p>
2 児童・生徒指導に関すること	<p>○児童生徒が教員を信頼でき、より一層の教育的効果を上げるためにも、教員に相談できる雰囲気や場を設定したいと考える。</p>	<p>○不安やストレスを抱えた児童生徒の気持ちに寄り添い、心のつながりを築くなど、子どもの内面にアプローチできる教師の資質向上を図る。</p> <p>○自立活動、課外活動の内容を工夫する。</p>	<p>○スクールカウンセラー及び外部講師による病気の児童生徒への心理的ケアについての研修を実施する。</p> <p>○児童生徒の情緒安定を図るために、外部講師によるマジックショーや音楽会等を実施する。</p>	<p>○スクールカウンセラー及び外部講師による病気の児童生徒への心理的ケアについての研修を実施することができ、日ごろの子どもや保護者への接し方に活かされた。</p> <p>○小児科病棟の師長さんから病院の研修会に参加できるよう計らってもらえ、良かった。</p> <p>○児童生徒の情緒安定を図るために、外部講師によるマジックショーや音楽会等を病棟の協力のもと、実施することができ、子どもたちにとって、楽しい時間を過ごすことができた。</p>	<p><b>A</b></p> <p>質問1 理解してくれているか？                  児童生徒「5」75%、「4」12.5%                  保護者「5」77.8%、「4」22.2%                  教職員「4」100%                  学校関係者「5」27.6%、「4」37.9%</p> <p>質問2 相談しやすいか？                  児童生徒「5」62.5%、「4」12.5%                  保護者「5」88.9%、「4」11.1%                  教職員「4」80%                  学校関係者「5」27.6%、「4」13.8%</p> <p>○児童生徒、保護者、学校関係者から理解してくれ、相談しやすいの評価をいただいている。</p>	<p><b>A</b></p> <p>○学校関係者からは、評価する声と「治療中(?)の子に対しては少しきびしいと思える。きびしさは必要だと思うが、自分が患者ならやる気がそげると思うときがある」のご意見もあり、児童生徒理解について今後も研修する必要がある。また、学校関係者に学校の教育活動についての理解をいただく活動が必要と考える。</p> <p>○分校に在籍する児童生徒は、常に変わることから、個々の児童生徒や保護者の状況に合わせて接していく必要があるため、今後も相談しやすいと感じてもらえるよう実践力を高めていく必要がある。</p>
3 学校運営に関すること	<p>○センター的機能の充実のため、専門性の向上を目指した研修会や講演会を開く場合には、本校の教員や南国市の教職員にも呼びかけるようにしたい。</p>	<p>○特別支援学校としてのセンター的機能を充実させる。</p> <p>○病院、保護者、前籍校との連携を図り、円滑な前籍校復帰を図る。</p>	<p>○専門性の向上を目指した研修会や講演会に本校や南国市の小中学校に案内をする。</p> <p>○医教連絡協議会や医教連絡会を継続し、必要に応じて病院内の各分野と連携した会を実施する。</p> <p>○居住地校交流・支援会議等必要に応じて開催する。</p>	<p>○専門性の向上を目指した研修会や講演会に本校や南国市の小中学校に案内したが参加者はなかった。</p> <p>○病院関係者の協力により医教連絡協議会や医教連絡会を継続して実施することができ、児童生徒の実態把握ができ、学習活動に活かすことができた。</p> <p>○居住地校交流・支援会議等必要に応じて開催し、前籍校との交流教育や退院後に安全な学校生活がおくれるよう取り組むことができた。</p>	<p><b>B</b></p> <p>質問4 交流教育ができていますか？                  児童生徒「5」62.5%、「4」12.5%                  保護者「5」77.8%、                  教職員「5」40%、「4」60%                  学校関係者「5」13.8%、「4」37.9%</p> <p>質問5 病院と連携しているか？                  保護者「5」66.7%、「4」22.2%                  教職員「5」20%、「4」80%                  学校関係者「5」44.8%、「4」27.6%</p> <p>○交流教育は、児童生徒や保護者から、病院との連携は、保護者と学校関係者から、一定の評価が得られた。</p>	<p><b>B</b></p> <p>○研修会や講演会については、早い時期に計画し本校や南国市の小中学校に対して案内するよう取り組む必要がある。</p> <p>○前籍校や病院との連携については、学校当事者や担当者でないとは分らない部分があり、保護者や学校関係者に対してご理解いただく活動の取り組みが必要である。</p>